

「地域道德の向上」「読書活動の推進」に向けて 南丹市教育委員会 教育長 木村 義二

皆さま方にはこの間、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の防止対策として、健康と安全を第一に考えた長期にわたる小中学校の休校を始め、社会教育施設の利用休止などの対応に多大なるご理解とご協力を賜っておりますことに深い感謝とお礼を申し上げます。

南丹市教育委員会では、子どもたちの学びを保障するため、学びの継続に全力で取り組んでおります。将来にわたって地域社会の担い手となる子どもたちを地域社会の皆さまとともに育て、地域の教育力を高めることで

ふるさとを愛し、皆さまが生涯にわたって学び続けられる活気に満ちた社会をつくるため、さらなる教育活動の推進に努力して参る所存であります。

本年度は、今必要とされている「道德」を「地域道德」として位置づけ、「考え、議論する」ことで道德性を高めて参ります。また、学びの基礎力の一つとなる読書を、すべての世代において読書に親しめる環境を整えるため、読書の機会と環境の充実を図るよう、取り組みを進めて参りますので、より一層のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

◆各幼稚園・小中学校における本年度の特色ある取り組み◆

園部 幼稚園



好奇心や探求心が、子どもの可能性を広げていく

幼稚園の裏にある小向山。3歳から5歳まで繰り返し出かけて遊んでいます。木登りや崖登り、山道を探検したり、木の枝や葉を集めてごっこ遊びをしたり…。最初はおぼつかなかった崖のぼりも、繰り返し遊ぶ中でダイナミックな遊び方になり、体力も向上しています。小向山での体験が遊びに刺激を与え、表現活動を豊かにすることがわかります。それぞれの年齢で体験してきたことが積み重なり、年長になる頃には小向山を自分たちで活かしながら遊びを展開しています。
自然は子どもたちの想像力を掻き立ててくれる大切な環境！身近な自然に感謝しながら保育に取り入れていきたいと考えています。

園部 八木中央幼稚園



やったー！できた！
非認知能力は子ども主体の遊びの中で育つ！

毎年、年長児は竹馬を保護者に製作していただき、自ら挑戦する気持ちを大切にに取り組んでいます。簡単には乗れない竹馬…コツコツ取り組む子、できない！と初めから諦める子、友達の様子を見ている子など、一人一人の意欲の高まりは様々です。「竹馬に乗れるようになりたい」「乗れるようになったのをおうちの人に見てほしい」と一人一人の心が動く瞬間を見逃さず、目的をもってあきらめずに挑戦できるように環境を整え保育を進めています。

園部 小学校



対話や深い学びを生み出すための素地を養うコミュニケーションタイムの取り組み

昨年度から取り組み始めたコミュニケーションタイム。「質問ジャンケン」「グループでお話作り」「共通点見付け」などの活動を通して、思いを伝え合うことの喜びや楽しさを味わい、コミュニケーションの素地を養うことが目的です。
この活動で笑顔がたくさん見られ、児童同士のつながりが深まることともに、伝えることへの自信が高まりました。また、話し合うことによって考えの広がりや深まりを実感する児童が増えました。
本年度も継続して取り組み、更にコミュニケーション能力の向上を目指します。

園部 第二小学校



6年生の和太鼓演奏に取り組む姿勢から、下級生は多くのことを学び、憧れを抱きます。

本校では6年生になると、和太鼓学習が始まります。初めて太鼓に触れる児童も、この一年で素晴らしい演奏ができるようになります。
上達のポイントは、「高まり合い」と「絆」です。お互いにより良い演奏をしようと刺激し合う雰囲気生まれ、時に厳しい練習となっても、仲間に声をかけ、励まし合うことで、学級集団の絆が深まります。
自分や仲間の成長を実感し、最高学年としての自信と誇りを高める和太鼓学習は、「園二っ子」の伝統的な取り組みとして受け継がれています。

園部 八木西小学校



城山登山など、地域を学びのフィールドに

八木西小学校では、1年生の歓迎遠足として、校区にある城山の登山を行っています。この登山は、自治会や学校運営協議会・PTA役員の方々と、子ども達が登りやすいように整備していただき、地域の方々の協力のもと実施しています。
城山登山のように、地域が学びのフィールドになり、豊かな自然や環境、そして地域の方々の温かさに触れながら郷土愛を深める学習に取り組んでいます。「大好き 八木西！」

園部 八木東小学校



子どもたちのもつ意欲や可能性を引き出しながら、取り組みを進めています

本校では、1～4年生が、けん玉やなわとび、一輪車等、15種目の中から一つを選んで自分の記録に挑戦する「八木東小チャレンジ」の取り組みを行っています。人権教育を基盤としながら、一人一人のよさやがんばりを互いに認め合うことで、自分に自信をもち、自己肯定感を高めることを大切にしています。また5・6年生は運営側となり、本番の日まで熱心に下級生の支援をしたり検定をしたりします。高学年の子どもたちも、他者との関わりの中で自己有用感を高めることにつながっています。

園部 殿田小学校



学習発表会で能の演目「鶴亀」を舞う児童

「ぼく、生き畑(はた)に生まれてよかった」。これは、殿田の伝統文化「能楽」について、地域の方からお話を聞いていた時の子どもの言葉です。本校では、地域の方が子ども達の応援隊として、駅伝鉢巻や学習発表会の衣装を作っていたり、地域学習に協力していただいたり様々な形で子ども達を支えてくださっています。学校運営協議会との連携のもと、地域の方から学び、ともに活動する中で、地域のよさを実感し、地域を誇りに思う心が育っています。

園部 胡麻郷小学校



「胡麻の夏まつり」で演奏する5・6年生

胡麻郷小学校金管バンドは、30年をこえる伝統ある取り組みで、夏祭り等の地域の行事に参加しています。毎年演奏を楽しみにしてくださっている地域の方々の拍手や笑顔が、子どもたちの励みになっています。
活動の締めくくりに、1年間自分が使った楽器を分解してきれいに洗います。3学期には、4、5年生に楽器が手渡され、4年生は6年生から楽器の手入れの仕方や指使いの手ほどきを受けます。このように金管学習は、地域の方々につながることや、仲間と心を合わせる喜び、自己有用感や達成感を感じられる取り組みとして、子どもたちの手で引き継がれています。

美山小学校



「美山クラス」ハヶ峰登頂！！

本校では、学校運営協議会で、「美山クラス」を地域学校協働活動の1つとして取り上げ、「かまどでご飯を炊いて、ハヶ峰に登ろう！」と題して、自分たちが暮らす美山を知り、地域の魅力を再発見することをコンセプトに、地域と保護者、学校と一緒にプログラムを考えました。

当日は、自分たちで炊いたご飯をお弁当につめて、幅広い年齢層が連なってハヶ峰に登りました。尾根からは若狭の海も見えて、大満足の1日となりました。

園部中学校



全校合唱「いのちの歌」
令和2年3月2日

園部中学校では、これまで『いのち』の大切さについて考え、その尊さについて学ぶ取り組みを、全校あげて進めてきました。昨年度、新型コロナウイルス感染症蔓延予防のため、急遽、在校生全員が出席できなくなった卒業式。臨時休校となる直前の3月2日に、卒業を間近に控えた3年生と、1・2年生全員で、当たり前の学校生活やみんなと過ごした日々、お世話になった先輩方、ともに活動した後輩達に、感謝の気持ちを込めて、本校生徒が大切に歌い継いできた「いのちの歌」の全校合唱を行いました。昨年度最後に全校生徒で取り組んだこの全校合唱は、園部中学校の素晴らしい伝統の一つとなり、今も本校生徒の胸に焼き付いています。園部中学校では今後ともこの素晴らしい伝統を引き継いでまいります。

八木中学校



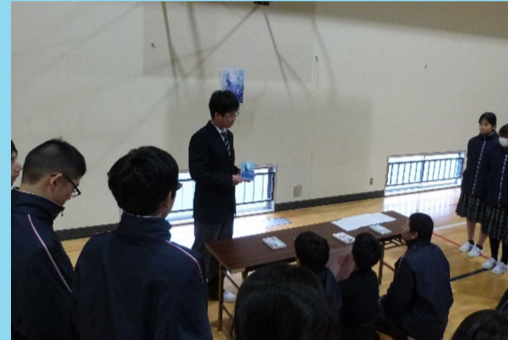
練習したけん玉を披露し、交流を深める生徒たち

昨年度、心のバリアフリー事業の取り組みとして、本校3年生と丹波支援学校中学部と生徒との交流及び共同学習を実施しました。7月4日に丹波支援学校で行った第1回目の交流を受け、10月31日に第2回目の交流・共同学習を行いました。

体育館で学年合唱を披露した後、中学部の各クラスに分かれて楽器の演奏やゲーム等、様々な活動を行い、時間の経つのも忘れ、楽しいひと時を過ごしました。

この2回の交流・共同学習を通して、共に学び合う仲間として、互いを理解し、相手を思いやる気持ちが育まれ、心の面での成長につながりました。

殿田中学校



「読書集会」のブックトーク

殿田中学校は、豊かな学校生活を創造するため、月に1度、水曜日の放課後を「特活の日」と定め、生徒の自主的、実践的な活動を支援しています。1月の取り組みは図書部主催の「読書集会」でした。一定期間、1冊の本をクラスで回し読みする「本リレー」の取り組みをもとに、この日はその感想を交流したほか、分野別に図書部員がおすすめの本を紹介する「ブックトーク」を行いました。生徒にとって、紹介された本に触れたり、様々な感想に興味を持ちたりするなど、読書の持つ面白さや楽しさを感じる良い機会となりました。

美山中学校



地域学校協働活動・地域と一体となった教育

本校では、「学校と地域が一体となった教育」「地域に開かれたカリキュラムの構築」を目指しています。令和元年度より配置された地域コーディネーターの尽力により、地域との交流の広がりが見られました。2年生職場体験まとめ学習では、地域住民の参加を得て、異なる世代が「働く」をテーマにそれぞれの思いや考えを双方向に交流しようというワークショップを行いました。地域の皆様と共に学ぶ機会は、生徒にとって必要なコミュニケーション能力をはじめ、さまざまな資質、能力の育成につながるという理念の下、今後も地域との交流をさらに進めていきます。

桜が丘中学校



心を通わせ、楽しみながら仲間と作り上げるハーモニー

桜が丘中学校では、令和元年度より「総合音楽」の時間として、年間を通して「合唱・合奏」を楽しむ活動を行っています。

以前より「音楽部」として行ってきた活動を整理し、「総合的な学習の時間」の一環として位置づけし取り組んでいます。自分を表現し、お互いの良さを認め合い、仲間とのハーモニーを楽しむ時間になっています。

今では、音楽好きな生徒達が声を出し、心を通わせて合唱を作り上げてくれるようになりました。

◆南丹市教育委員会の取り組みと事業展開について◆

中学校にもコミュニティ・スクール(C・S)を導入します！

南丹市教育委員会では、平成29年から順次小学校にコミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)を導入してきました。コミュニティ・スクールとは、「学校運営協議会」が設置された学校です。「学校運営協議会」には、地域・家庭・学校、それぞれの代表が任命されます。それぞれの学校に育つ子どもたちがどのように育ってほしいか、熟議を通してそれを共有し、その実現に向けて、3者それぞれが役割を果たしたり、時には協働して取り組んだりする仕組みです。

令和2年度からは、中学校にもこの学校運営協議会を設け、いよいよ全小・中学校を上げて、コミュニティ・スクールに取り組めます。次代を担う子どもたちを育むために、地域・家庭・学校が同じ目標に向かって、取り組みを進めてほしいと考えています。

こちらからC・Sリーフレットをご覧くださいませ⇒



「地域道徳」で子どもたちの道徳性の育成を！

今年度は、この学校運営協議会で取り上げていただくテーマの一つに、「道徳」を掲げています。

嬉しいことに、全国学力・学習状況調査質問紙における「人の役に立つ人間になりたいと思う」「いじめはどんなことがあってもいけないことだと思う」という二つの項目における肯定的回答率が、全国・府の平均を上回っています。また、「人が困っているときは、進んで助けている」という実際に行動しているという質問についても、小・中学生ともに、全国・府の平均を上回っています。

これは本市の子どもたちの良さであると考えており、これらの道徳性をさらに高めていくために、運営協議会や、運営協議会が企画する熟議(ワークショップなど)のテーマに「地域道徳」を取り上げていただき、地域総がかりで子どもたちの道徳性を育てていただきたいと思います。

第2次南丹市子どもの読書活動推進計画を策定しました！



昨年度末に、南丹市立図書館職員と、各小・中学校に配置している「ことばの育成支援員」の2年間にわたる協議を経て、第2次南丹市子どもの読書活動推進計画を策定しました。これは、第2次南丹市教育振興基本計画に掲げる市民像にある、「生涯にわたって、心豊かに学び続ける力」を、社会総がかりで育もうとするものです。子育てに関わる3者がそれぞれの目指す役割を認識し、それを共有することで、子どもたちが自ら本を読みたくなる環境を整えることを目指しています。

また、この計画の具体施策にも挙げている「フックスタート」事業を、令和2年度から始めました。これは、妊娠前から図書館の利用を呼びかけ、乳幼児健診の際に、1冊の絵本をプレゼントする事業です。お渡しする際、実際に図書館職員等が、乳幼児さんに読み聞かせをします。子どもとの触れ合いのツールとして読み聞かせを紹介するとともに、幼少期から保護者の皆さんが読書と一緒に楽しんでもらうことで、読書好きの子どもを育てたいという思いからスタートしました。

市立図書館には、たくさんの本があります。ぜひ親子で本を借り、読書の楽しさを一緒に味わっていただければと思います。

こちらから計画をご覧くださいませ↑



スポーツでみんなの心と身体を元気に！

休校が続き外出が少なくなってしまう児童・生徒向けにCATVを活用して体を動かすエクササイズを放映しました。

今後もスポーツを身近に感じ、誰もがいつでもスポーツに接することができるよう様々なツールを活用して情報提供ができるよう考えていきます。